

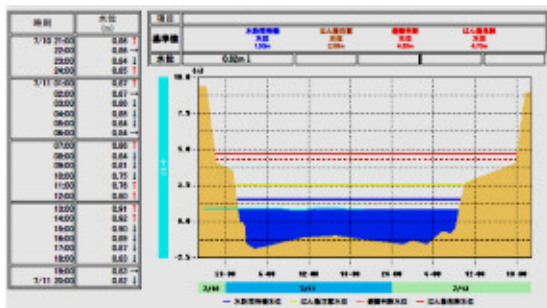
減災対策の主な取組み（神明地域）

1. 危険情報の発信

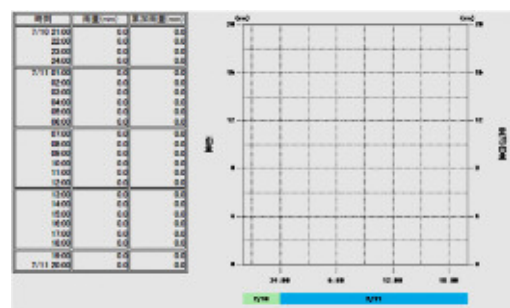
(1) 現況の情報

① 河川監視カメラ

② 河川水位情報



③ 雨量観測情報



(2) 予測の情報

① 洪水予報（洪水注意報・警報）

2. 情報発信のツール

- ① 洪水ハザードマップ
- ② CGハザードマップ
- ③ ひょうご防災ネット
- ④ 防災行政無線、ケーブルテレビ
- ⑤ 緊急速報メール



3. 防災力向上

- ① 防災リーダーの育成
- ② 避難訓練、防災訓練の実施・支援
- ③ 出前講座の開催
- ④ フェニックス共催





兵庫県CGハザードマップ



兵庫県マスコット はばたん

みなさんのまわりの危険な箇所をインターネットで知ることができます

CGハザードマップ

検索

CGハザードマップの特徴

- 特徴①** 5つの自然災害を掲載（洪水・土砂災害・津波・高潮・ため池災害）
- 特徴②** 見たい地点を簡単検索（郵便番号や住所、主要な施設、地図から）
- 特徴③** 雨量や河川の水位など災害時に役立つ観測情報を配信
- 特徴④** 河川・港湾のライブカメラのリアルタイム映像を配信
- 特徴⑤** 災害の恐ろしさや、避難時の留意点の学習

兵庫県ホームページ トップページ



携帯電話
QRコード



CGハザードマップ トップページ



特徴① 5つの自然災害のハザードマップが確認できます



ため池災害
●浸水想定区域

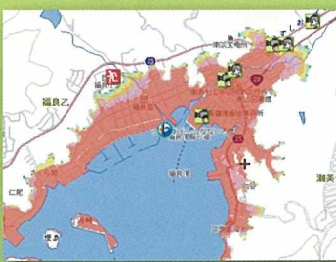
土砂災害 ●土砂災害警戒区域

- ・土石流
- ・地すべり
- ・急傾斜
- 山腹崩壊
- 雪崩

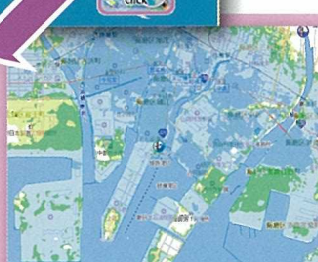


津波

●浸水想定区域
(南海トラフ巨大地震を想定した場合)



高潮
●浸水想定区域



洪水

●浸水想定区域
●過去の洪水実績



特徴② 見たい地点を郵便番号や住所などから簡単に検索できます

① 災害を選択

② 場所を入力



津波を選択
南あわじ市福良と入力した場合

現在地 南あわじ市福良甲 付近

●津波浸水想定

5.0m以上
4.0m以上～5.0m未満
3.0m以上～4.0m未満
2.0m以上～3.0m未満
1.0m以上～2.0m未満
0.3m以上～1.0m未満
0.3m未満

●避難所

- 避難所
- リアルタイム情報
- 会社
- 津波イメージCG
- 3次元動画(岸から)
- 3次元動画(空から)



地図の色は、浸水した場合の深さとその範囲を示しています



避難所情報

地図上に表示されている避難所の情報が確認できます

名称	福良小学校
所在地	南あわじ市福良乙1205
電話番号	
収容人数	410名



3次元イメージCG

3次元動画で災害発生後のイメージが確認できます

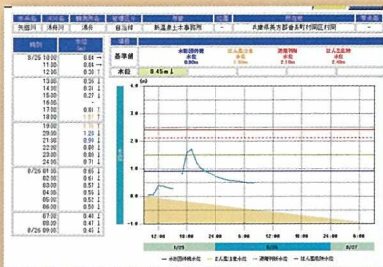


特徴③ 災害時に役立つ観測情報がリアルタイムで確認できます



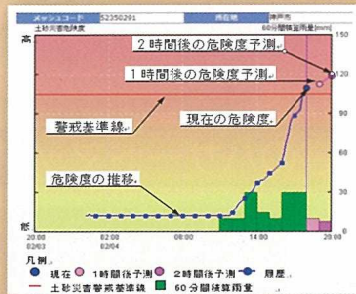
河川の水位情報(川)

現在の河川水位の観測データが確認できます



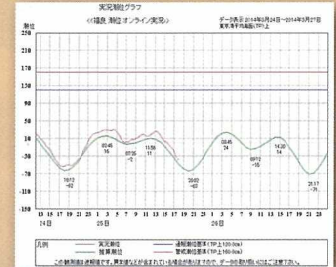
地域別土砂災害危険度(山)

現在の土砂災害の危険度が確認できます



海面の潮位情報(海)

現在の潮位の観測データが確認できます



特徴④ 河川・港湾のライブカメラ画像が確認できます

特徴⑤ 災害の恐ろしさや避難時の留意点を学ぶことができます



河川監視カメラ



港湾監視カメラ



防災学習
(洪水編)

○使用するブラウザは、Microsoft Internet Explorer 6以降、Fire Fox 3以降、Safari 5以降、Google Chrome を推奨します。
○画面の解像度が、1024×768 ピクセル以上のディスプレイでご覧になることを推奨します。
○「防災学習コンテンツ」のご利用にあたっては、最新の Adobe Flash Player をあらかじめ導入してください。
○本サイトは、ブロードバンド対応となっております。

お問い合わせ先

○このパンフレットやCG ハザードマップのシステムについては、兵庫県県土整備部 県土企画局 技術企画課までお問い合わせください。 電話：078-362-9248
○各災害の詳細については、下記担当課室にお問い合わせください。
【洪水】に関する事：河川整備課
【土砂災害】に関する事：砂防課・治山課
【津波】に関する事：防災計画課 電話：078-341-7711 (代表)
【高潮】に関する事：港湾課・漁港課
【ため池】に関する事：農村環境室

1,17は忘れない	県政だより
6・7面	おでかけひょうご
	ひょうご情報スクランブル
8面	地域版



ためる
雨水が川へ一気に流れ出さないよう、一時的にためます

校庭貯留

透水性舗装

ながす
流せる水の量を増やすため、河川を整備します

そなえる
減災知識を身に付け、大雨による被害を小さくします

西宮市立大社小学校での出前講座

地域ぐるみで風水害対策!

総合治水の効果をPRするため、昨年、県との共同企画で神戸大学工学部の3年生が製作したジオラマ模型。小学校などでの出前講座で活用しています。

元気コラム 兵庫県知事 井戸敏三

阪神・淡路大震災20年事業



来年1月17日である阪神・淡路大震災から20年を迎える。この20年の私たちの経験や教訓をどのように位置づけ、検証し、活かしていくかを今こそ整理して発信していくことが必要なのではないか。私たちは、20年を迎えるにあたって、今の状況を踏まえておこなうべきではないか。まず第一に、阪神・淡路大震災を知らない、経験していない人々が被災地でも40%を超えており、私たちの経験や教訓を伝えていくことが必要となっている。

第二に、阪神・淡路大震災以降も大規模地震が続き、風水害被害も続いている。復旧復興に際して、私たちは、何が必要なのか、その時々に対応せざるを得なかった。その後の被災地の復旧復興は同じではないにしても、阪神・淡路大震災の復旧復興過程は大いに参考になるはずである。

第三は、南海トラフ地震の発生確率がこの30年で70%と、その発生が間近に、切迫してきた。

第四は、東日本大震災をはじめ、科学的知見の蓄積と計画的対策の進展である。この3月には中央防災会議で南海トラフ地震対策推進基本計画が定められ、兵庫県でも国の想定を踏まえて、二級河川への遡上や地震による防潮堤の沈下量も見込んだ被害シミュレーション結果を2月に公表した。今後は、津波防災インフラ整備5箇年計画を進めるとともに、これらを踏まえて南海トラフ地震対策アクションプランを定め、その推進を図っていく。

また、関西広域連合でも、関西全体としての防災・減災対策をとりまとめている。関西各府県がどのような役割を果たせるのか、そのための連携調整をどうするか。

シナリオも変えていく。第五は、東日本大震災被災地復興への支援し、新しいまちづくりを目指すスタートが切られた。県職員等140名余が支援している。それだけではなく、まちづくりの専門家、芸術文化を通じた支援、看護・保健グループなど、支援し続けておられる。まさに「活かす」フィールドとなっている。関西広域連合も210人の人たちが被災地で活躍している。

第六は、実践的な防災訓練の積み重ねである。自助、共助、公助の組合せが防災・減災対策の基本であるが、まず危険時の持ち出し袋、避難所の確認、家具の転倒防止措置などまずチェックが必要。防災機関は行動計画をシナリオ化しておく必要がある。これが、「タイムライン」である。そして、これらは事前にも何度か実践的な訓練が必要である。以上のことから、「阪神淡路20年」1・17は忘れない「備える」基本テーマを「伝える」「備える」二つに「活かす」として、県民総参加の減災発信事業を展開していく。大震災の犠牲者への追悼とあわせて、経験と教訓を忘れてはならない。世代を超えて「伝える」、次なる大震災の被害を可能な限り減らすため県民ぐるみで「備える」、被災地兵庫の成果を国内・外の防災・減災の取り組みに「活かす」。このために、県民総参加でそれぞれが取り組む事業を登録してもらい、阪神・淡路大震災20年事業として展開していく。兵庫からの発信をしよう。

神明地域総合治水推進計画 第1回ワーキング

減災対策アンケート調査(案)

平成26年8月25日

1. 目的

減災対策では、自治会や防災福祉コミュニティ等の住民主体の組織が、防災活動において重要な役割を果たす。これらの活動は、各地区における水害実績、浸水想定等の水害リスクによって異なることが考えられる。そのため、減災対策の検討では、各地区における防災活動の現状や課題を抽出し、そこから各地区に応じた実効性の高い減災対策を提示していくことが必要となる。

本アンケート調査の目的は、神明地域の浸水常襲地、浸水想定区域図で甚大な被害が想定される地区(浸水深 3m以上)の自治会や防災福祉コミュニティを対象として、過去の水害実績、水害に対する備えや課題(水防訓練、避難基準、避難方法、情報伝達手段等)を把握することによって、総合治水推進計画における減災対策を検討する。

2. 対象

アンケート調査の対象者は、以下の通りである。

- ・明石市：
- ・神戸市：

--

3. 実施時期

平成 26 年 8 月下旬から 9 月上旬

関係各位

兵庫県東播磨県民局 加古川土木事務所

**「神明地域総合治水推進計画」における
アンケート調査のお願い（依頼）**

平素は県の土木事業にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当事務所におきましては、兵庫県の総合治水条例（平成24年4月1日施行）に基づき、明石市及び神戸市西部の「神明地域総合治水推進計画」の策定を進めています。

本計画では、「ながす：河川下水道対策」「ためる：雨水を一時的に貯留・地下に浸透させる流域対策」「そなえる：浸水した場合の被害を軽減する減災対策」を3本の柱とし、これらを組み合わせた「総合治水」を推進し、流域住民の安全と安心の確保をより向上させることを目標としています。

そこで「そなえる」対策として、貴団体の減災に関わる取り組みについて調査し、計画に反映させようと考えています。つきましては、以降に示しますアンケート調査にご協力頂けますよう、よろしくお願いいたします。

お願い：同封の封筒に入れて、平成26年●月●日（●）までにご投函頂きますようお願い致します。

【提出先】

〒541-0045 大阪府中央区道修町1丁目6-7

(株)建設技術研究所 大阪本社

水システム部 田中、大矢

TEL：06-6206-5797

FAX：06-6206-6046

【お問合せ先】

〒675-8566 加古川市加古川町寺家町天神木97-1

加古川土木事務所 企画調整担当 木本、齊藤

TEL：079-421-9183

FAX：079-421-0072



対象地域と対象水系

減災対策アンケート調査票(案)

1. 地域の状況について

問1 貴団体のある地域の身近な地形についてあてはまるものすべてに○をしてください。

1. 大きな川が近くにある
2. 天井川が近くにある(川底が地盤より高い)
3. 地滑り地が近くにある
4. 崖地が近くにある
5. よく浸水する場所がある
6. 近くに断層がある
7. 該当するものはない

問2 貴団体では防災用の資機材の整備や、非常時のための備蓄をされていますか。整備、備蓄されているものにすべて○をしてください。

1. 資材保管庫
2. 土のう袋
3. スコップ
4. のこぎり
5. ナタ・鎌
6. 掛矢・たこ槌
7. ハンマー
8. 木杭
9. ロープ
10. 船・ゴムボート
11. ジャッキ
12. ハンドマイク
13. 消火器
14. バケツ
15. 断水時の水源
16. ブルーシート
17. 毛布
18. 食料
19. 飲料水
20. その他()
21. 準備や備蓄はしていない

問3 貴団体の防災力を高めるためには、何が一番必要だと考えますか。ひとつ○をしてください。

1. 住民の意識向上
2. リーダーの育成
3. 行政による指導、助言
4. 資機材の整備
5. 住民間のコミュニケーション向上
6. 行政による財政支援
7. 地域の事業所や商店との連携
8. 他の団体との連携
9. 防災専門家との連携
10. その他()

2. 被災履歴について

問 4 貴団体のある地域は、過去に自然災害により被害を受けたことがありますか。

いくつでも○をしてください。

1. 水害により被害を受けたことがある
2. 土砂災害により被害を受けたことがある
3. 地震により被害を受けたことがある
4. 大きな被害を受けたことがない（聞いたことがない）

問 5 貴団体の地域での被災体験・履歴について記入をお願いします。

3. 水害に対する地域防災力について

問6 貴団体の防災活動では、どのような人または組織が主導的な役割を果たしていますか。あてはまる人や組織をすべてに ○をしてください。

1. 貴団体の会長
2. 貴団体の防災担当の役員
3. 水防団員（消防団員）
4. 民間事業所や企業組合・団体の人
5. 災害ボランティアの人
6. その他（）
7. 主導的な役割を果たしている人や組織はない

問7 貴団体は、防災面で何か困ったことがあったときなど、消防署や消防団・水防団と、いつも連絡をとりあっていますか。ひとつ ○をしてください。

1. いつもよく連絡をとりあっている
2. よく連絡をとりあっている
3. あまり連絡をとりあっていない
4. ほとんど連絡をとりあっていない

問8 貴団体は、防災面にかかわらず、何か困ったことがあったときなど、市や区役所とふだんから連絡をとりあっていますか。ひとつ ○をしてください。

1. いつもよく連絡をとりあっている
2. よく連絡をとりあっている
3. あまり連絡をとりあっていない
4. ほとんど連絡をとりあっていない

問9 貴団体における河川の堤防決壊などの洪水による浸水発生の可能性がわかる「（河川）洪水ハザードマップ」（「災害ハザードマップ」「浸水実績図」などの名称の場合もあります）を、ご覧になりましたか。ひとつ ○をしてください。

1. 細かいところまで詳しく見た
2. ざっと大まかだけ見た
3. 少しは見た
4. そのような地図は見たことがない
5. そのような地図はない

問 10 今後5年のうちに、貴団体で、床上浸水のような大きな浸水被害が発生する危険性はどの程度あると思いますか。ひとつ ○をしてください。

1. かなり危険性が高い
2. やや危険性が高い
3. 危険性は低い
4. 危険性はまったくない
5. わからない

問 11 貴団体では、この2～3年間に、次にあげるような水害についての対策を自主的に実施していますか。自主的に実施したものをいくつでも 選んで、○をしてください。

1. 水害がおきたときの対策を話し合った
2. 防災座談会・懇談会などを自主的に実施した
3. ふだんから地区内の危険と思われる所を巡回し、点検している
4. ふだんから雨や風の気象情報や、川の水位などの情報に注意している
5. 水害から身を守るため、地区内・外で、避難場所となる高いところを探した
6. 高い建物をもつ企業や事業所・個人宅に、水害時の避難者受け入れを頼んだ
7. 水害がおきる危険が迫ったときの避難誘導體制を整えた
8. 介護が必要な体の弱い人や高齢者の避難誘導體制を整えた
9. 防災資機材の整備・点検を定期的に行っている
10. 食料などの備蓄や確保を行った
11. 独自の防災マップを作った（あるいは現在作成中）
12. その他（)
13. 以上のようなことはひとつもしていない

問 12 貴団体の住民のなかで、問 11 にあげたような、水害から自分たちの生命や財産を守るために何らかの対策を実施している人は、どのくらいいると思いますか。ひとつ○をしてください。

1. ほとんど全員が何らかの備えをしている
2. かなりの人が備えをしている
3. 約半数の人は備えをしている
4. 何らかの備えをしている人は半数に満たない
5. 備えをしている人はほとんどいない
6. わからない

問 13 貴団体では、次にあげるような水害に備えるための訓練（水防訓練）のうち、どれを実施していますか。国・県・市区主催の訓練への参加ないしは貴団体主催で実施している訓練を、すべてに○をしてください。

1. 情報伝達機器を操作する訓練
2. 河川や被害情報などの収集・分析訓練
3. 高い建物や避難場所に住民が避難する訓練
4. 住民による土のう作り
5. 浸水地区に取り残された住民を救助する訓練
6. ボートを使って人や物資などを搬送する訓練
7. 避難所での避難生活を想定した訓練
8. 炊き出し訓練
9. 応急救護訓練
10. 身体の弱い人やお年寄りを介護する訓練
11. 水害を想定した机上訓練や図上演習
12. その他()
13. 以上のようなことは、ひとつもしていない

問 14 最近行った水害に備えるための訓練（水防訓練）には、地区住民のうち、どれくらいの方が参加しましたか。国・県・市区、貴団体主催の訓練のいずれでも構いません。ひとつ○をしてください。

1. ほとんど全員が参加している
2. かなりの人が参加している
3. 約半分の人が参加している
4. 住民の参加者は半分に満たない
5. 参加者はほとんど役員だけ
6. 水防訓練は実施していない

問 15 長雨が続きたり、雨が強まったりして水害の危険が高まったとき、貴団体ではどのようなことをしますか。これまでの経験から、あてはまるものをいくつでも○をしてください。

1. 水害の危険がある地区や溪流、川、堤防、下水溝・管などを見回る
2. 気象情報に注意を払う
3. 市・区役所と連絡を取りあう
4. 役員同士で連絡を取りあう
5. 消防署や消防団・水防団に警戒するよう依頼し、連絡を取りあう
6. 危険だと判断すると、自主的に役員等が参集する
7. 上流や下流にあたる地区の雨量や川の水位の情報を集める
8. 危険があるところに、土のうを積んだり、補修などをする
9. 大切な物を高いところに移動する
10. 浸水が発生する可能性がある地区の住民の安否確認や、注意の呼びかけをする
11. 身体の弱い人や高齢者に注意を呼びかけたり、場合によっては避難誘導する
12. その他()
13. 以上のようなことは、まったくしていない

問 16 水害の発生が高まってから次の行動をとろうとする際の「判断基準」を貴団体では、お持ちですか。ひとつ○をしてください。

1. 団体独自で「判断基準」を決めている
2. 団体独自の「判断基準」はなく、別団体からの判断情報を用いて、その指示に従う
3. 団体独自の「判断基準」はなく、その場の状況で判断する
4. その他()

問 17 水害の発生が高まってから次の行動をとろうとする際の行動を示す「行動マニュアル」を貴団体では、お持ちですか。ひとつ○をしてください。

1. 団体独自で「行動マニュアル」を作成している
2. 団体独自の「行動マニュアル」はなく、別団体からの情報を用いて、その指示された行動をとる。
3. 団体独自の「行動マニュアル」はなく、その場の状況で行動をとる
4. その他()

問 18 もしも、あなたまたは貴団体の役員などが、洪水による浸水が発生する可能性が大きくなったと判断したとき、その情報をどこへ伝えますか。あてはまるものをいくつでも○をしてください。

1. 市・区役所など
2. 消防署や消防団・水防団
3. 地区内にある病院や福祉施設など
4. 国や県の機関など
5. 地区内の人たち
6. その他()
7. 何もしないと思う

問 19 洪水による浸水の危険がある地区内に住んでいる人に、緊急に一斉に情報を知らせるための手段として、何を使うことになっていますか。使うと思われるものをすべてに○をしてください。

1. 市の防災無線の戸別受信機
2. 市の防災無線の屋外放送
3. 有線放送
4. 有線放送電話（オフトーク通信）
5. 貴団体が直接言って回る
6. 貴団体の電話連絡網で伝える
7. 消防団・水防団が直接言って回る
8. 市の職員等の行政の人が直接言って回る
9. サイレン・半鐘
10. 市や消防署の広報車
11. テレビ・ラジオ
12. ひょうご防災ネット（防災ネットあかし、神戸市（安全・安心情報）等）
13. その他()

問 20 もしも洪水による浸水が発生する危険が大きくなった場合、貴団体は、自主的に洪水による浸水の危険がある地区の人に避難を呼びかけますか。ひとつ○をしてください。

1. 必ず避難を呼びかけるだろう
2. たぶん、避難を呼びかけることになるだろう
3. たぶん、避難の呼びかけはできないだろう
4. 避難の呼びかけはまったくできないだろう

問 21 水害の危険が高まり避難することになったとき、安全な道を通って、安全な避難場所に行くことはできますか。ひとつ〇をしてください。

1. 安全で歩きやすい道がある
2. 途中で危険な所や歩きにくい道がある
3. 安全で歩きやすい道はあまりない
4. 安全で歩きやすい道はほとんどない

問 22 貴団体または消防団や水防団が、自主的に洪水による浸水の危険がある地区の人に避難を呼びかけた場合、どのくらいの人が避難に応じてくれると思いますか。ひとつ〇をしてください。

1. ほとんど全員が避難してくれるだろう
2. かなりの人が避難してくれるだろう
3. 半分くらいは避難してくれるだろう
4. 避難する人は少ないだろう
5. ほとんどの人が避難してくれないだろう
6. その他()

問 23 貴団体のある地域が、万一水害で水浸しになってしまった場合、貴団体では、どのような活動をすると思いますか。水害が発生してから3日目くらいまでに活動すると思われることを、いくつでも〇をしてください。

1. 行方不明者を捜索する
2. 居住者の安否を確認して回る
3. 身体の弱い人や高齢者などの安否の確認や介護をする
4. 浸水した地域に取り残された人々をボートなどで救出する
5. 浸水した地域に取り残された人々に食料などを配給する
6. 被災した人に避難所で救援活動をする
7. 温かい食べ物などの炊き出しをする
8. 避難所の運営をする
9. がれきを処理したり、浸水地区の掃除や後片づけをする
10. 被災した人へのお見舞い金を集める
11. その他()
12. 何もしないと思う

問24その他、総合治水に関して、ご自由な意見について記入をお願いします。

最後に以下の設問にお答えください。

貴団体名

貴団体の構成人数 約（ ）人

回答者名

性別 男・女（○をつけてください。）

年齢 20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳以上（○をつけてください）

あなたが当てはまる以下の項目についてすべて○をして下さい。

1. 貴団体の会長
2. 水防団員
3. 貴団体の防災担当（自主防災組織）の役員
4. 消防団員
5. 災害ボランティア
6. その他

以上、ご協力ありがとうございました。